平成３０年度　第１回　山梨県文学館協議会　会議結果記録

日　時：　平成３０年１０月１２日（金）　午後２時～４時２０分
場　所：　県立文学館研修室
参加者：
　〇委員　　津久井豊徳、青木れい子、杉原克彦、水石和仁、古川裕佳、廣瀬孝嘉
　　出澤忠利、澤谷滋子、赤井美知江、髙橋惠美子、清水千春
　〇県教育委員会　小島教育次長、学術文化財課　百瀬課長、海老根主任
　〇文学館　　三枝館長、桐林副館長、古屋次長、高室学芸幹、保坂学芸課長
　　飯沼資料情報課長、望月総務課主幹、中野学芸員（学芸担当ﾘｰﾀﾞｰ）、
　　石田主幹・教育主事（教育普及担当ﾘｰﾀﾞｰ）、小林副主幹（資料情報課ﾘｰﾀﾞｰ）
　〇指定管理者　岩野ＳＰＳやまなし支配人、高橋ＳＰＳやまなし副支配人

議事
　（１）平成２９年度事業報告等について
　（２）平成３０年度事業報告及び予定等について
　（３）その他

司会　桐林副館長

議事録
◎教育委員会教育次長挨拶
◎会長挨拶
◎館長挨拶
◎事務局職員紹介
◎議事（議長は規定により会長が務めた）

〇事務局から会議資料により、議事（１）～（２）を説明

〇議長
　事務局の方から、活動の状況をわかりやすくご説明頂きました。盛りだくさんの工夫の跡が、あったかと思いますが、只今の事務局からの説明について、何かご質問、またはご意見等がありましたらお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

〇Ａ委員
　先ほどの説明にもあったんですが、夏休みの、美術館の魔法の美術館、それから文学館が童話の花束をやっていたのですが、先に美術館の方に行きまして、とてもご家族がとても大勢いました。それから文学館に戻ってきたんですが、ちょっと観てる方がとても少なくて、美術館の人たちがこちらへ来てくれるととてもいいんじゃないかと感じました。文学館では、展示作品のリーフレットをいただいたのですが、とてもすてきなリーフレットで、切り紙とか折り紙やスタンプを工夫して飾り付けてあり、あれを無料で持って行くだけじゃもったいないとその時感じました。

その資料を活用し、子供たちどおしや親子で、朗読会とか何かできたらいいんじゃないかと感じました。

それから、童話の花束の最後の方に、先程紹介があった写真を撮れるスペースはあったのですが、ロビーのところに何にも表示がなかったんです。以前、村岡花子さんの企画展をやった時には、アンとかプリンセス･エドワード島の風景とかがあってとても良かったんですよね。こちらの文学館のホームページから何かないかと思って探しましたら、村岡花子と赤毛のアンの大型絵本・立体パネル・衣装の３つのセットとか、芥川龍之介を夏休みに展示した際の、同様な３点セットが、移動文学館として貸し出しをしているようなんですが、あれをロビーなんかに置いたら、とてもいいんじゃないかと思いました。以上です。

○議長

事務局から何かそれについてございますか。

○事務局

貴重なご意見ありがとうございました。会場の最後に置かせていただいたリーフレットですが、あれは、館の職員で色々パンチをしたり、消しゴムはんこで押したりということで、家内工業で作った物ですけれども、非常に皆さんにご好評いただきました。あれを作成するに当たっては、７つの作品を一人１作づつ担当し作ったものですが、著作権継承者に許可をとり、ご了解をいただいたもので作成しました。販売するという形もあれば、無料で配布ということもあったんですが、先ほども高室学芸幹が話をしたように、なかなか今、活字で読むということができないことから、あの場で、例えばパウチのような形にして読んでもらうということも考えたのですが、長いものについては、なるべく多くの方に家に持ち帰ってゆっくり読んでもらおうというで、無料で配布という条件で著作権継承者に許可を取りました。また、販売ということになると、色々な面でちょっとハードルが高くなるかなということも考え、今回については無料で配布という形になりました。

それから、撮影のスペースですが、今は、気に入った場所を撮影して、それをＳＮＳでアップするということが盛んに行われており、それをたくさんの方が楽しみにしてらっしゃるということがあります。確か村岡花子の時は２階のロビーで会場に入る外側で、撮影コーナーを設けたと思うんですけれども、今回は展示室の中に設置し、展示を見ていただきながら撮影も楽しんでもらおうということで、展示室の中にそういったスペースを作りました。

で、移動文学館については各学校から、色々な形で要請・希望があり、一つのシリーズで幾つかセットを持ってますが、どれも非常に人気があり、結構年内を通し貸し出していることが多いので、今後考えて行きたいなというふうに思っております。

○議長

ありがとうございました。美術館の方は人が多いけども、その人が文学館の方へきてくれればと、いうふうな話でございましたが、文字情報が中心の文学展示を、どのようにビジュアル化していくかということが大きな課題だろうと思います。色んなところでご苦労や工夫をなさっているのがうかがえます。他に、何かご質問、ご意見等まだございましたらどうぞ。

○Ｂ委員

私はこの間、探検ツアーで野外彫刻を含めた探検ツアー、特別ツアーというのに参加させていただきました。この特別ツアーっていうのは前にここでも要望が出て検討してくださったと思います。ツアーでは、飯田蛇笏と龍太の二つの文学碑を解説していただいたり、後、彫刻も解説していただきました。そして、日本庭園の中の、枯山水の説明なんかもうかがったりしながら、最後はちょうどお茶会の日でしたので、そこでお茶をいただいて解散という内容でした。１時間くらいの内容でしたが、大変良かったです。参加者はそれほど多くなかったんですが、参加された方々はみんなきっと満足されたことと思います。

私は、この特別ツアーに３回参加しました。今年は、４月２２日と、５月６日と、１０月７日に行ったんですが、お茶会に併せて開催するということもあるかも知れませんが、お茶会の回数は限られています。庭園の中の自然もすごくいいと本当に思います。県民の皆さんや県外の皆さんに是非ＰＲして、身近に感じてもらって公園に来ていただけたらと強く思っています。秋は、楓林の路のところが本当に素晴らしい紅葉になるんです。県内には昇仙峡とか色々ございますけれど、遠くへ足を伸ばさなくても、この芸術の森公園の紅葉って本当に素晴らしいと思います。イチョウもそろそろ色付き始めましたし、秋のシーズンは、週末にツアーを開催するなどなんとかこれを売り物に出来ないかと思っております。

それから、美術館の方のお客様を文学館にというご意見がございましたが、私も本当にそう思います。文学館協力会と申しまして、ボランティアの団体で１１０名ちょっとの組織なんですが、この文学館をもり立てていこうというふうなボランティアの団体です。私もショップの運営もさせていただいてるんですが、ショップから美術館の方を見ると美術館に入るお客様も見えるんですが、そのお客さんの半分がこちらへ足を向けてくれたらと協力員の皆さんと話をするんですが、現在も美術館との連携というのはＳＰＳさんが検討してくださっていて、大変有り難いと思います。私は、美術館の方のボランティアもさせていただいたんですが、お客様からあっちの建物は何ですかと聞かれるんです。美術館は知っているけど、文学館を知らない方が結構いらっしゃいます。そこでですね、ちょっとあちらにいかがですかという形で、ぜひ、美術館のスタッフの方々も機会があったら文学館を案内していただきたいと思います。

また、素心菴でのお茶会をしてらっしゃいます。数年前はお菓子代として３００円ほどお金をいただいてやっていたんですが、その時はお客様があまり入らなかったような感じがいたします。ですが、ここ２年くらいでしょうか無料になりました。そうすると無料で呈茶がいい環境でできるって言うのが県民の皆さんに浸透していって、現在では行列が出来ています。そして、お茶菓子の数が限られていますので、午前中の最初の方で終わってしまうんですよね。せっかく、文学館の素心菴では呈茶をやってるんだということが知られても、「入れなかった」という声も結構ありますので、その辺のところを検討していただけたらなと思います。たとえ１００円いただいても、お客さん来ると思うんです。いろんな事情とか都合があるのかも知れないんですが、お茶会が盛況なものですから、「入れなかった」という声を解消するようなことをご検討いただけたらなと思います。

文学館は、職員の皆様、学芸の皆様が一生懸命やっているにも拘わらず、なかなか来館者数が伸びない。これはやはり、企画の内容が一番大きいんだろうなと思います。こんな言い方するとなんか申し訳ないんですが、企画に何を取りあげるかっていうことが一番だと思います。実際に、文豪ストレイドックスとか、かいけつゾロリの時は、やっぱり集客数が増しています。それから、ＮＨＫの朝のドラマで花子とアンの時も本当に大勢の方がみえたんですが、そのような魅力的というと簡単なんですが、何か人を引きつける企画を考えていただきたいと思います。、私の身近

な３０代位の人に、津島佑子さんとか、草野心平さんの企画展を今やってるよといっても、知らないっていわれてしまいました。だから、今の３０代位の人たちは、私たちが思っている以上に、文学者を知らないっていうか、草野心平ぐらい知ってるんじゃないか、知ってて当然だろうとこっちは思ってるんですけれど、意外に知らない。そのギャップがあるんじゃないかと感じます。

さきほど、協力会のショップの運営もやらせて頂いてると話しましたが、なかなか入館者が少ないために、このところ売り上げがだいぶ少なくなって参りまして、ショップの運営自体が成り立たないんじゃないかとちょっと苦境に陥るような感じがありまして、一生懸命内容を検討してるところなんです。しかし、行き着くところ、やっぱりお客さんが来てくれるような企画がないかなというところに戻ってしまうんです。今年の総会でも、林真理子さんとか、辻村美月さんとか、今の若い人が非常に身近に感じるような人を是非取り上げてもらったらどうかという意見もありましたので、是非ご検討お願いしたいと思います。また文学館の特別展が、前は年に２回あったんですが、今は１回になっています。そういう関係でもあるんじゃないかと思うんです。、だから、図録も年１回しか作らなくなってしまいました。ショップの売り上げは、図録はとても大切でして、それを目当てでいらっしゃるお好きな方もいらっしゃいますが、今回は作ってないんですよとお断りしなきゃいけない実情もありますので、よろしくお願いします。

〇議長

ありがとうございました。多岐に渡るご提案ご意見をいただきましたが、その中で特に何か注目されて何かお答えするようなことがございましたらお願いします。

〇事務局

色々と細やかに全体の事業についてお考え頂いて、ご意見をいただいてありがとうございます。終わりの方にお話しをいただきました、展覧会の来館者数ということに付きましては、私どもも毎回開催の前に、どういう形で多くの方に来て頂いたらいいかということも、学芸課だけではなくて館全対で、指定管理者も含め知恵を絞りながら行なっているところですが、その企画の内容によるところも大きいというご意見をいただきました。そもそもどういう展覧会を次年度、その次と開催していくかということに付きましては、学芸中心でまず案は練って参りますけれども、おっしゃる通りその多くの方が今、何にご関心を向けられておられるかということは、当然そのテーマを決める時に考えなくてはいけないことと意識はしております。また、同時に皆さんがまだ関心は向けられていないけれども、ここに向けていただきたいと言うところも多くの人に知っていただきたいテーマとして、文学館側から広めていきたいという視点もまた持っています。また、展覧会を開催する際、色々なことを考えながら決めていかなければいけない要素もございまして、色々ご心配いただいていることも、心に留めて今後の事業について考えて行きたいと思っております。

〇議長

はい、ありがとうございます。間もなく３０周年を迎えるというふうな中で、何か既にお考えがあったら、ご紹介を頂ければと思いますが。いかがでしょうか。

〇事務局

来年度が３０周年と言うことで、まさしく案を練り詰めているという状況でございます。これ

まで、１０周年、２０周年と、その折りにはその周年の記念の展覧会を開催したり、またその関連の催し物というものも行っておりますので、３０周年というのは非常に大きい節目と思っております。３０周年に相応しい事業を考えて行きたいと思っておりますが、本日ここで、詳細なことまではご説明するような段階まではありませんので、また次の機会にはお話しできるかと思っております。

〇議長
　はい、ありがとうございます。楽しみにしていてくださいということでございます。他にはご意見ございますか。

〇Ｂ委員
　質問なんですが、前にＮＰＯが、企画展とか特設展に併せてバスツアーを開催し、私も何回か参加しました。集合場所が文学館になっており、必ず最初に企画展を参加者全員が見るわけです。内容は、その企画展にあわせたような、ゆかりのある場所などを巡っていくツアーなんですが、それをとても楽しみにしている東京の方からも、毎回私はこれに参加しているんですよという声も聞いたのですが、ああいう企画が続くと、楽しみに文学館へ足を運ぶ方が固定客じゃないですけど、いるんじゃないかと思うんですが、このところ開催されていませんので状況を教えて頂きたいと思うんですが。

〇事務局
　展覧会の時に、展覧会を見ていただいた後、その内容にまつわる県内のゆかりの場所を見て頂くということを、ＮＰＯ組織との協働事業という形で、何年間か続いた文学散歩という催しがかつてございました。数年前からその事業は行っておりませんけれども、要望が多いと言うことは心に留めておきたいと思います。その辺は、文学館が求められている、学校教育との連携をより強くというような、様々なご要望に併せて、限られた予算の中で、事業の取捨選択ということも必要となっております中での展開でございます。
またご意見として、承っておきたいと思います。ありがとうございます。

〇議長
はい、その他ございますか。

〇Ｃ議員
　ちょっと極論になるかも知れませんが、先ほどから、皆さんが気になっていると思います来館者人数のことがでてますけれども、施設がきちんと仕事をしているかというということを考える時には、数字でしか見ることができません。それで、私どもも、来館者数にとても気を配るわけですけれども、極論ですが、私は来館者数はもう無視していいと思っています。それで、文学館が何をしなければいけないかというと、蓄積する研究だと思うんです。学芸員は、企画展とかを３０年やってきた。そこで、一人一人の作家について掘り起こしていった。それの蓄積が、山梨県の中には、観覧者として見る人は多くないかも知れないけども、そういう見方をして、ここでの研究や発表に力を入れる。それでこの３０年間の展示の内容を見させていただきましたところ、作家の思いという縦割りの、文学という世界の縦割りの扱い方ををしていると思います。３０年

間、樋口一葉について、誰それについて、一人一人文学者の縦割りのやり方でずっと来ていらっしゃる。これはとても重要なことだと思いますけれども、県がこの文学館を作る時に、この文学館で何を研究して欲しいか、何を残して欲しいかを検討したと思います。私は、縦割りの時期はもう終わりにしたほうがいいと思います。縦割りですと、この人が好きじゃなければ来ないって言うような、来館者を狭めることになりますけれども、横に切るという中に時代とか歴史とか、文学の世界の人たちが、この時代をどう見ているか、戦争という物をどう見たのか、原爆という物をどう見たか、そういった横割、横に切ったやり方で文学という物を、この県民に残していく、その蓄積、これは学芸員にとって大変なことだと思いますけれども、ある一人の作家について深くするということはとても大事なことだと思います。でも文学が、世界を、歴史をどう見てきたか、文学者がどういう位置にいたか。例えば美術でしたら、戦争に迎合した画家展とかありますね。あるいは反対した画家展。そんな切り方の研究をしていただきたい。それには人が来なくても、とにかくここで一つの研究が残る、そういう運営の仕方をしていただけたらということを感じました。

○議長
　はい、ありがとうございます。文学館の在り方について、数に捕らわれる必要はないというふうなご意見でございました。何が大事かという視点があるのではないかということでございます。先程の、最初のところで館長が、時代と共にどう表現されていくか、どういう享受をされているかとかこういうところと繋がっているんだろうなと思います。そういう視点で、展示を考えるのもいいかなというようなご指摘だと思います。またお考えいただければと思います。

○D委員
　私どもの大学の国文学科の学生が、毎年４月にオリエンテーションということでお伺いするんですけれども、後で学生たちに、一番強く印象に残ったのはどんな展示だったと感想を聞くと、芥川龍之介の所蔵されている資料に、すごく惹かれるっていうことを言います。後はと聞くと、やっぱり太宰の資料がここ文学館にはあるということをすごく言われます。それは国文学科の学生だということもあるかも知れませんけれども、後はって聞くと、案外山梨の作家という話は出てこない。深沢七郎とか樋口一葉とかは見たのって言っても、あんまりそこにいかなくて、芥川、太宰っていうふうになりがちなんです。それが逆にいうと、やっぱりすごいコレクションが文学館にはあるっていうことだと思うので、持っている物の価値っていうんですかね、そういうことに強く惹かれる学生なので、その持っている物の深さみたいな物を、直筆を見た、初めてだ、こんな経験は初めてだというようなことで喜ぶ。そういうこともまた、体験として非常に学生にとっては重要な物としてあるので、今日のお話とあまり重なるところはないんですけれども、私としては一言、館の皆様にお伝えしておきたかったです。

○議長
　芥川、太宰の貴重な資料が、たくさんここにはあるということで、ここに来たいと思っている学生はいっぱいいるというふうなことでございます。

○E委員
　先ほど出てきました、来館者数の話って言うのは、やっぱり、ある程度は必要だと思います。

先ほど出ました来館者にこだわる必要がないという意見ですが、確かにそういう考え方もある一方で、本当にバランスをとるって言うんでしょうか、研究に特化していると、県立の文学館という開かれた施設で、多くの人に来て頂くのも一つの目的であると思いますので、その辺、来館者数にそれほど迎合する必要もないと思いますが、逆に研究ばかりに特化して、文学館を県民から遠ざけるようなことになっても困るなというところで、バランスを上手くとって頂ければと思います。当然考えていらっしゃる話だと思いますけれども、新聞の立場で言わせてもらうと、高室さんがおっしゃったような、文学館側からこう提案したいっていうか、文学館側で見てもらいたい、読んでもらいたいっていう提案をするという考え方と、今、世間で関心があるものについて取り上げて見てもらうのを、新聞でもやはりそれを意識しています。新聞でも世間で関心のあるっていう物を取り上げるように、これは今必要だから是非読んでもらいたいというような、あまり読まれないだろうっていうのも少数の人にでも心に響いてもらえたらいいというか、この時代に今、これが必要だ、そういう物を心がけて掲載しているようにしているんです。活字離れが言われる中で、やはり文学館の考え方も私たちの参考にしていくかも知れませんのでこんな機会に考えた次第です。先ほど話がありました、横割り、縦割りじゃなくて、横の見方って言うのも非常に面白いんじゃないかなと思います。以上です。

○Ｆ議員

こうした公設の博物館ですとか、ミュージアム、色々ありますけれども、それぞれがどういう役割を持っているかというのは、当然認識はされているとは思いますけれども、県民にはどこがどういう役割を担っているのかっていうのは、ちょっと分かりにくいのかなというところもありますので、３０周年を期にその辺の何ていうんですかね、足元を固めるみたいなことも必要なのかなと思います。先ほどの、横割りでテーマを決めるというところは非常に私も賛成で、作家で切ってきたところを、今度はテーマを決めて切っていくというところは、非常に世の中に伝えるところが大きいのかなと思います。例えば、今、非常に全国的に災害が頻発し、地震、台風とか豪雨とかありますけれども、例えば関東大震災の時に、文豪たちは何を考えていたかとかですね、そういったことでやると、相当大切にしていた物が出てきて、ちょっと我々としても取り上げやすいですし、県民の皆さんもちょっと目が向くのかなあと思っております。そういったことを、トライをして行って頂ければ、もうちょっと、逆にその方が来館者につながるかも知れませんので、そういったことにトライしていって頂ければいいと思っております。

私のところは映像メディアですので、動画と音ということで、直接的には文学というのはなかなか取り上げるには難しい部分があります。メディアではあるんですけれども、逆に言うと、今、活字離れというか、紙媒体離れと言うことで杉山さんには悪いんですけれども、新聞とか雑誌から離れていって、実はテレビからも離れていっています。今は、スマホでＳＮＳをしている人が相当多いというところですが、私の個人的な感想ですが、今ほど、活字に親しんでいる時代はないと思いますね。紙から、液晶に変わっただけで、活字には、たぶん１０年前よりはもっと接してると思いますので、その辺を何とか武器に出来ないのかなと思っています。

○議長

ありがとうございます。震災の時に文豪は、何を考えていたのか。ちょっと参考になるご意見をいただきました。

○G委員
　資料の中のですね、１３頁にございます、８番のワークショップのことでちょっとお話しを申し上げたいと思います。ワークショップの中で７月１７日の夏休みの自由研究プロジェクト、これに私は違うところでも関係しております。もう何年も行っているんですが、今年も特に子供たちに大変盛況でございました。私は、これはもっとすすめて頂きたい、力を入れて頂きたいイベントの一つではないかなと思います。色々な館の方、美術館だけじゃなくて、文学館や博物館から集まって参ります。ただ、１時から４時と大変短い時間なんですが、子供たちにとって、大変好奇心を満足させられる大きなイベントであります。そこに来ている方は、色々な方がいます。科学の好きな方もいるし、そうでない方もいます。今回も確か高室さん達が来て、色々なことを説明なされていました。これは文学に触れさせることができる手段ではないかと考えます。なかなか文学館に、両親もしくは親族の方や近い方が連れてくるのは難しいんじゃないかと思っているだけにですね、ああいうワークショップを外で行うところに力を入れて、多くの方に触れてもらうと、文学に触れて頂くこという機会が増えると思いますので、是非すすめて頂ければというふうに考えています。

○議長
　はい、ありがとうございます。夏休みのワークショップなんかは、大いにやって欲しい、子供たちの好奇心を満足させるようなそういうイベントをぜひ色んなところでやって欲しいというところでございました。そういうところから、子供たちの色んなものが芽生えてくるのではないかなというふうに思うので、そうだなと私も思います。

○G委員
　実はですね、さきほど観覧者については色んなお考えがありましたが、やはり県立っていう公立の施設であるっていうことを考えると、あまり一方付けはできない。先ほども文学関係の方がおっしゃっていましたがそうだと思います。さっき頂いた、年報とか、資料の中に、基本的な考えがありましたね。あれを見ると両方の部分が記載されているような気がします。資料等の大切な物を、保存、研究していくということと、県民が郷土を知って、ふるさとを愛していくといっていますので、そこら辺はもうお分かりだと思うんですが、やっぱり二つの面があると思います。それから私は、さっきそういう話が出たから話ずらいんだけど、自分が感じたことをちょっと２，３言わせてもらうと、こんなことは文学館じゃ出来ないなんてお叱りを受けるかも知れませんが、文学館にはかなりいいフロアがあると思います。去年、飾り雛や吊し雛を見せて頂いて、いい行事をしているなと思いました。もっと言うと、そういった活動に文学館をもっと有効利用出来ないかっていうこと。具体的に言わせてもらいます。例えば、この研修室くらいのスペースとか、二階のスペースがあったら、ある程度の音楽、例えばバイオリンとかギターとかフルートとか、そういった演奏ぐらいは出来るんじゃないかいうことをふと思いました。もっと言えば、子どもに興味が有るんであれば、ここへ机を並べて、今子どもに人気のある将棋講座とかができないだろうか、そういうふうなことを感じました。或いは落語なんかここで出来ないか。美術館が側にあるってことで、何かコラボというかそういったことが出来ないだろうかと思います。これは質問ですが、例えば、今日も草野心平展をやってますよね。美術館でもミレー展ですか、やってますね。両方見る場合割引とかそういうのはあるんですか。これは簡単に答えて頂けることですが、そういうことを考えているのかどうか。そして、外のスペースも、私も見てきたら、かなり立派

なスペースや芝があったり、先ほどバラ園を見させて頂きましたが、かなりいいところです。ただバラをぱっと見て何かが足りない。何かひとつわさびが足りないっていうか、例えば、あそこでバラの展示即売とか、こう小さい物があって、要するに多少お祭り的なものを加えてもいいのかなと個人的に感じました。

○議長
　具体的に色々ご提案をいただきました。その中で、美術館とのコラボ、いわばセット券みたいなものがあるかどうかと、セットで見られるようなそういう配慮はあるのかというふうなことだと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局
　先ほど具体例がありましたが、今やっている草野心平展と美術館のミレー展、こちらに関しては割引対象にはなっておりません。文学館の常設展と美術館の常設展では、当日の観覧料のセット割引というものはございます。

○議長
　まぁ同じところに、美術館とそれから文学館があると、同時に見られるような形があれば、というふうなご意見だとございます。そうすれば、もう少し来館者も増えるのではないか、で、時間も有効に使えるというふうにも思いますが。まあご検討頂ければと思います。

○H委員
　来る前に、この協議会の規約等を見ながら、私が所属する団体の中で話をした時に出てきた、要望とか気がついたことを思い浮かべながら皆さんのお話しを聞いてました。やはり文学館っていうのが、みんなで触れ合う場所でいいんだねっていうような話が見学の後でありました。それから、さっき切り口とおっしゃったように、特別特化した、何かシリーズと言うことで、命を謳うような、そんな美しい詩とか自然を謳うような詩の作家の方々が、なんかこう季節で何か見せていただけるといいねって言うような話をして、特に未来ななさんの話が出ました。
　それから、日本昔話の文学バージョンで山梨シリーズですね、山梨県バージョンシリーズなんていうのがあって、ここで語りべとかそういうイベントなんかがあったらいいねっていうような、お話しもありました。それから、初版本の世界。これはきっとガールスカウトで本を大好きな少女が、おじいさんから頂いた本を見て言ったコメントだと思うんですけど、初版本シリーズっていうんでしょうか、何かすごく有名な方のそのシリーズなんかも見たいというようなことがありました。だからここは、身近に触れてもいいし、色んな様々なことに特化してもいいし、縦も横も斜めも切り口は色々あっていいと思うんですよね。ただ、私どもの若い女性と、少女たちが言った、こんなのがあったらいいねっていうようなお話で、意見を述べさせていただきました。

○議長
　ありがとうございます。初版本の世界というふうな提案で、何か見せていただけるとそれもいいかなというふうなご意見でございました。

○H委員

今日この会場に来た時に、自転車が駐輪場にすらっと並んでて、あっ、きっと高校生がいるんだろうなと思って、この窓のところから見たら、女子や男子の高校生、城西高校ですか、何か校外活動で、楽しそうに秋を満喫しながら活動している様子を見て、ああ、こういう景色を見ると、すごい心が和むし恐らく私の家の近くの大型スーパーとかショッピングセンターであの子たちが遊ぶより、きっとこの芸術の森で友だちと語ったり色々な文学碑を見たりすることによって、心や人生が豊かになるんだろうななんて思いながら、ながめさせてもらいましたけど、私自身も実は主人と美術館の佐野洋子の１００万回生きた猫に来た後、初めてここを見せてもらいました。先ほど話がありましたとおり、やはりすごい彫刻とか文学碑とかがあって、充実した時間を主人と二人で過ごすことが出来て、ずっと山梨に住んでいるんだけど、初めて見るようなそんな経験をさせてもらいましたが、やはりまだまだ文学館・美術館のことを知らない人が多いんじゃないかって思います。先ほど指定管理者の方も、広報活動というようなことで、美術館にポスターの色を変えたりとか或いはるるぶというような旅行関連の書籍で、すごく懸命に広報活動をしたりしてすごい努力を感じるんですけど、やはりそういうこととかイベントをやっていること自体、情報として入ってない部分が多いんだろうなと思います。じゃあ、それはどういうふうにしていったらいいんだろうか。多くの人が集まるところとや駅でパンフレットを配布する。或いはローカルのところでベントの紹介とか様々な形を通しながら、広報活動をしていくのが今の時代に合っていると感じました。

後、教育普及で、色々なイベントを計画していただいて、先ほどの説明の中で、放課後教室にも出前事業をしていることをお聞きして、もちろん今、デジタル教科書なんかで、国語の授業で、短歌とかそういうのをすすめることがあるんだけど、子供たちが、文学館と触れ合ったり或いは出前授業なんかで三枝館長さんから直接お話を聞ける。本当に有名な先生に来て頂いて、そこで教わる時間ていうのは、すごく子供たちにとってプラスになると思うので、学校の関係者として、是非勧めてもらいたいと感じました。

あと、うちの学校は田富ですので、移動文学館は決して遠いところではないんだけど、この前子供たちは、美術館・文学館に１０名ほどで校外活動で来ましたけど、果たして友だちと来るってことは恐らくないだろうし、家族で来るっていうほど文化水準高くないだろうなんてことを思ってますので、そう考えてみると、職員室前の一角に移動文学館をこの前やらせて頂いて、最初は宮沢賢治だったのですが、その次は今の流行の文豪ストレイドッグスを持ってきていただき、そっちの方はすごく人気があって、私なんかなんでこれがいいんだろうって思いますが、でも今の子たちって飾った瞬間に職員室がうるさくなるくらい展示に集まりました。子供たちはああいうイラストみたいなものにすごく喜んでいました。ただ、その後芸術鑑賞会っというのがあって、そこでパントマイムの中で「注文の多い料理店」が出てきたんですよね。それとか、この前２年生の学園祭の学芸演劇で、「銀河鉄道の夜」なんか取り入れました。、そうすると子どもって、宮沢賢治のやったよねって言っても結びついてないんですよね。だから、早速、図書の先生に言って、そういうふうなことがある時には、それに関する本を図書室の前の一角にディスプレイしてあげないと、先ほどのこう、子供たちは、例えば移動文学館をやれば、宮沢賢治を見ました、もうそれで終わり。次にこっちで劇観ました。もう終わりって言うようなことで、ぜんぜん子供たちの中で結びつかないし、もっと深く追求してみようとはしていないんですよね。だから、やはり、教育関係者って言うのは環境を整えると同時に、子供たちがそういうふうなところに興味を持つような形で、図書館の司書を指導して、せっかく文学館を中心にこういうふうにやってくれてるのに、学校の中で、もう少し違うような取り組みをしていかないと、ただやりましただけじ

ゃなくて一人でも多くの子が文学に興味を持つ機会を作ってあげるのも私たちの仕事だと感じました。

〇議長

ありがとうございました。教育現場の方の、生々しい活き活きとしたお話しだったかと思います。その中でも、芸術の森散策ツアーみたいなものがあって、なんかこう散策出来ればいいのではないかというふうなことがありました。

様々なご意見をいただきました。意見も出尽くしたようでございますので、それでは３に移りたいと思いますが、その他、何かございましたらお願いします。特に無いようでございますので議事については、承認されたものとしてよろしいでしょうか。よろしければ拍手でご承認をお願いします。（会場からの拍手）ありがとうございました。１と２については承認されたものといたします。最後に、全体をまとめてさらに何かご意見、ご質問あればうかがいたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。特に無いようですので、以上で議事を終了したいと思います。ありがとうございました。

お気づきの点がございましたら、今後も事務局の方にご連絡頂ければと思います。本日も、貴重なご意見を賜りありがとうございました。以上ですべての議事を終了いたします。ご協力に感謝申し上げます、ありがとうございました。

〇事務局

それでは本日はご多忙のところご出席をいただき、また長時間に渡りご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。頂戴いたしました貴重なご意見等につきましては、今後の文学館の運営に役立てて参りたいと思います。これをもちまして本年度第１回目の文学館協議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。